# 掘るまいかー手掘り中山隧道の記録（2003）

**メディア** 映画
**ジャンル** ドキュメンタリー
**製作国** 日本
**時間** 83分
**初公開日** 2004/12/28

**【解説】**
新潟県山古志村にある中山隧道が作られるまでの、村人たちの奮闘を描くドキュメンタリー作品。監督は橋本信一、プロデューサーは武重邦夫。
1933（昭和８）年から作られた手堀りのトンネル、中山隧道。冬場は陸の孤島となる山古志村小松倉集落の住民が隣村まで行くには峠越えしかなく、病人を背負って半日がかりで峠を越えなければならない村民たちにとってトンネルの完成は夢であった。農業と養蚕の産業に現金収入を頼る資金力の乏しい村民は“掘るまいか！”（掘ろうじゃないか！）の精神の元、将来の子供たちのためツルハシを手にしたのである。岩盤は予想以上に固く、大雪との闘い、太平洋戦争での若い堀り手の出兵…。それでも村民たちは諦めなかった。掘削した土の排出・運搬のために鉄のレールを敷き、トロッコを押したのは子供たちだった。女たちは白飯の弁当を男たちに持たせ、自分たちは豆や雑穀などで耐えながら磨耗したツルハシを峠を越えて鍛冶屋に運ぶ。そして1949（昭和24）年５月１日午後８時20分、ツルハシの一撃に反対側からの風が吹き抜けた。2004年10月23日に発生した新潟県中越地震もこの中山隧道を破壊することはできなかった。16年という歳月をかけ、しかも人力だけで、一人の死者も出さずに隧道を完成させた山古志村の人々の不屈の精神力に迫る。

**【クレジット】**
**監督** 橋本信一

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.